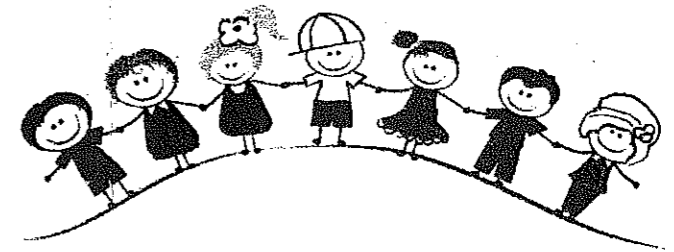


第8次地区福祉計画(平成27年度~32年度 6カ年)



活動目標

ひとりひとりが支えあい、つながるまちづくり

活動項目

- 1. 地域住民の交流の場づくり
- 2. 子育て・障がい者支援の充実
- 3. 情報提供・収集・発信の充実
- 4. 組織の充実と人材発掘・養成への取り組み
- 5. 甲東・段上・段上西分区合同事業への参画・協力

具体的活動



1. 地域住民の交流の場づくり

- 社会に適応しづらい人やその家族を中心としたつどい場作りの推進
自宅解放、空き家・自治会館、集会所等を活用したフリースペース
例えば、介護者のつどい場(ほっこりたいむ)や認知症カフェ等、当事者同士が気軽に集え、リラックスできる場をめざす。
- 「甲東いきいきサロン」「おおいち喫茶」「はちまん喫茶」の実施
地域の人が気軽に集い、お茶を飲みながらゆっくり憩い、ふれあえる場として開いているが、さらに充実し、いろいろな場所に広めていきたい。
- 「甲東新春を祝うつどい」の実施
75歳以上の独居高齢者を招いて、地域の人と一緒に新年を祝い、楽しい時を過ごせる場として開催。ともに元気に過ごす希望に繋ぐ。
- 多世代交流の場の開催
多世代の地域住民が楽しく交流し、つどえる場を開催する。
「甲東分区の小春日和」と名付けていた会をさらに内容検討する。
- 「ふれあい昼食会」「高齢者等のつどい」の支援
各自治会単位で実施している「ふれあい昼食会」「高齢者等のつどい」への支援を充実させ、さらに未開催地域へ拡大するために働きかけを強化する。
- あんしんキットの普及支援
緊急時の備えとして、あんしんキットの利用を薦め、見守り活動の充実にもつないでいく。
- リタイア世代の活躍の場を考える
定年退職されたとはいえ、まだまだ元気に活躍できる人が地域には沢山いる。その力を埋もれさせずに発揮してもらえる場を考えたい。例えば、閉じこもりがちな男性に外出の機会を作るため、「男の料理教室」を開く等々
- 見守りが必要な人や埋もれているニーズを発掘する。
自治会、昼食会グループ、民生委員児童委員、さらに地区ボランティアセンター等との連携を密にし、地域のニーズを探る。

2. 子育て・障がい者支援の充実

- 「びよびよ」「ピーナッツ広場」の推進
子育て中の親と、子ども、地域住民が気軽に集える場をつくり、地域で子育てをサポートしていく。「ピーナッツ広場」は3分区で行っていたが、27年度から甲東分区が引き続いて実施していく。
- 「なかよし学級」支援の推進
特別支援学級「なかよし学級」の子どもたちを一時預かったり、登下校の付添いをしたり、地域の行事でサポートしたりするための「なかよし学級サポート隊」を組織する。
子どもたちとその保護者をよく知り信頼関係を築くため、保護者との懇談会や参観、ふれあい交流会等を実施する。
- 福祉学習の推進
障がい児・者を理解するために、勉強会や体験学習を通じて、福祉意識の向上に努める
- 放課後寺子屋の支援
青愛協(青少年愛護協議会)が主催する放課後寺子屋や行事の支援を行う。

3. 情報提供・収集・発信の充実

- 広報誌の発行
地域住民に分区活動を案内・紹介・報告し、分区活動を理解していただくために、分区単独で広報誌を発行し、発信したい。
- 自治会長との交流懇談会の実施
- 民生委員児童委員との交流懇談会の実施
- 昼食会グループの交流懇談会の実施
現在、地区福祉委員会でやっている昼食会グループの懇談会を分区へ移行することにより、密度のより高い交流会とする。

4. 組織の充実と人材発掘・養成への取り組み

- 地域ネットワークの推進
人間関係が希薄になってきている今、近隣とのつながりを密にしてきめ細かく見守っていくために、地域の様々な団体が参加するネットワークシステムを推進する。
- 分区事業を円滑に進めるための組織運営を考える。
それぞれの役割を明確にし、お互いに連携を取りながら活動しやすい組織的な運営を目指す。
- あらゆる機会を利用して人材の発掘・養成に取り組む。
例えば自治会長、民生委員児童委員との交流懇談会、ボランティアのつどい、住民参加の講座等々の機会を利用
- 地区ボランティアセンターの機能強化
ボランティアセンターの機能を充実させることにより、活動の活性化と更なる人材発掘につないでいく。
- 募金活動、会員会費制度の推進
赤い羽根共同募金や歳末助け合い等の募金活動を推進するとともに、会員会費制度にはさらなる協力を呼びかける。

5. 甲東・段上・段上西分区合同事業への参画・協力

- ボランティアセンター・配食事業の運営への参画・協力
- 地区福祉委員会の運営への参画・協力
- 「文化のつどい」の開催への協力

甲東分区の現状と今後の課題

甲東分区内には8531世帯、人口は20411人(2013年)の人が住んでいる。文教住宅都市西宮市の一角を占め、最近マンションも多くなってきたが、全体的には一戸建ての多い住宅地である。分区内には甲東園と門戸厄神の二つの駅があり、交通の便が良い。スーパーもいくつかあり、買い物のもも良い。医療機関も充実している。住むには最良の地域である。そのため、高齢になっても住み続ける人が多く、徐々に高齢化が進んでいる。高齢者のひとり暮らしも増え、孤独死の危険性も増えてくることが予想される。

誰もが安心して暮らせる地域を目指すためには、いろいろな立場の人がつながり合い、つどえる場を作り、お互いの顔を見知ることから始めて、まず地域にどのようなひとが住んでいるのかを知ることが第一歩であろう。地域住民の中に顔見知りが増え、密なつながりできることが、安心につながっていく。そのうえで、地域住民が力を合わせ、要援護者への支援活動を如何に充実させるか、また声を上げない人、自分から繋がろうとしない人にどのように手をさしのべたらよいか今後の課題となるだろう。

マンション住民や若い人たちの中には、自治会活動やボランティア活動にかかわりたくないという人が多く、福祉活動をする意識が薄い。年々、活動役員には高齢者が多くなり、同じ人がいくつもの業務を兼務している人が多。多くの人少しずつ力を出し合うことで、一人の負担は軽くなる。住みよいまちを作り、地域住民みんなで支え合うことの大切さを理解してもらうためには、啓もう活動が欠かせない。

この数年、甲東地域では、甲東・段上・段上西3分区で行われていた活動の主体をそれぞれの分区に移していき、身近な地域、まちの中で住民同士で支えあえるシステムを作るため、分区での小地域福祉活動の充実に力を注いできた。今後はさらにそれを深め、広げていくことが望まれる。甲東分区としても今まで以上に地域に根ざした活動を続けていきたい。

地域にはボランティアができる人がたくさんおり、一方援助を必要とする人もたくさんいる。分区の組織を見直し、必要なところに必要な援助が届く支えあいのシステムを作り、気持ちのつながったあたたかい地域をつくってきたい。

今後の《主な課題》

○分区活動への理解・協力を得るための広報の充実

社協の分区活動が、地域住民に充分理解されていない。理解していただくための広報活動を積極的に行っていく。

○地域住民のコミュニケーションを深めるための方策。

社協活動を理解していただくとともに、住民の願いや意見等を聴く機会をつくっていく。

○要援護者に気づき、支援するネットワークづくり。

援護を必要としている人に気づき、支援する人、支援する方法を考える。

○住民が互いに学び合う機会の推進

認知症、障害福祉、介護等を学ぶ機会をつくり、共助の精神を培う。

